

様式1（視察用）

## 会派行政視察報告書

令和7年度会派 青雲倶楽部 の行政視察研修を、令和7年5月19日(月)から5月20日(火)の1泊2日にて執り行いましたので、その概要を下記のとおり報告いたします。

令和7年6月13日

名取市議会議長 長南 良彦 様

会派名 青雲倶楽部  
代表 山田 龍太郎

### 記

- 1 期 日 令和7年5月19日（月）～5月20日（火）
- 2 参加人員 7名 議員 佐藤 繁樹 議員 鈴木 英信  
議員 寺嶋 雅子 議員 二階堂 充  
議員 熊谷 克彦 議員 大泉 徳子  
議員 山田龍太郎
- 3 視 察 先 (1) 山形県鶴岡市  
(2) 山形県東根市
- 4 行 程 表 別紙のとおり
- 5 調 査 事 項 別紙のとおり
- 6 所 感 別紙のとおり

# 令和7年度 青雲倶楽部 視察研修行程表

日程	行程	視察先及び視察項目	宿泊
<p style="text-align: center;"><b>令和 7年 5/19 (月)</b></p>	<p style="text-align: center;"> <small>高速バス</small>            仙台駅(仙台駅前) (9:00発) ⇒⇒⇒(11:35着)庄内観光物産館    <small>昼食</small>                      <small>路線バス</small>                                      <small>徒歩</small>            …………… (13:23発) ⇒⇒⇒(13:31着)鶴岡市役所前……………    <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin: 5px;"> <small>14:00~15:30</small>  <b>鶴岡市議会視察</b> </div> <small>徒歩</small>                                      <small>路線バス</small>            …………… 鶴岡市役所前(16:14発) ⇒⇒⇒    <small>高速バス</small>            (16:25着) 庄内観光物産館(16:45発)⇒⇒⇒(18:24着)山形駅前              ……山形市内(宿泊)         </p>	<p style="text-align: center;"><b>山形県鶴岡市議会</b></p> <p>所在地 鶴岡市馬場町9番25号            電話番号 0235-35-1908(事務局)            調査項目 1 部活動地域移行について</p>	<p style="text-align: center;">ルートイン山形駅前</p> <p>所在地 山形県山形市双葉町1丁目3-1            電話番号 023-647-1050</p>
<p style="text-align: center;"><b>5/20 (火)</b></p>	<p style="text-align: center;"> <small>JR奥羽本線</small>            ホテル…………山形駅 (10:20発) ⇒⇒⇒(10:50着)さくらんぼ東根駅    <small>昼食・タクシー</small>                                      <small>13:30~15:00</small>            …………… (13:20着) <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">東根市議会(さくらんぼタントクルセンター)視察</div>    <small>タクシー</small>                                      <small>JR奥羽本線</small>            …………… さくらんぼ東根駅 (15:57発) ⇒⇒⇒(16:20着)    <small>JR仙山線</small>            羽前千歳 (17:18発) ⇒⇒⇒(18:39着)仙台駅         </p>	<p style="text-align: center;"><b>山形県東根市議会</b></p> <p>所在地 東根市中央一丁目1番1号            電話番号 0237-42-1111(代表)            調査項目 1 東根市さくらんぼタントクルセンター</p>	

名取市議会青雲倶楽部 視察研修報告書

青雲倶楽部の視察研修を、令和7年5月19日（月）から5月20日（火）まで1泊2日で執り行いましたので、その概要を次の通り報告いたします。

令和7年6月13日

名取市議会 議長 長南 良彦 様

青雲倶楽部 代表 山田 龍太郎

1 期 日 令和7年5月19日（月）～5月20日（火）

2 参加者 青雲倶楽部 7名

佐藤 繁樹議員 鈴木 英信議員 寺嶋 雅子議員 二階堂 充議員  
熊谷 克彦議員 大泉 徳子副議長 山田 龍太郎議員

3 視察先及び調査事項

(1) 山形県鶴岡市 部活動の地域移行について

(2) 山形県東根市 さくらんぼタントクルセンター（屋内版子どもの遊び場）について

4 全体考察

今般の視察先については、本市行政で課題となっている部活動の地域移行及び屋内での子どもの遊び場について調査を行った。

鶴岡市については、早くから多様な子供たちのニーズに合わせ、保護者及び関係者と話し合い重ね、幅広い組織・団体等を育成・発展させ受け皿づくりをしている。子供たちのニーズに沿った多様な受け皿づくりについては参考にすべきと考える。

東根市は30年前から子育て先進都市を掲げ福祉・教育行政を進め、その理念のもと、2005年に「さくらんぼタントクルセンター」を建設した。屋内で子供が遊べる施設である。高い所に登ったり、滑ったり、子供たちにとって、楽しい施設である。遊びで体感し学び心身共に健全な育成を図っている。子供が骨を折っても管理責任が問われることなく、けがもお持ち帰り（自己責任）ということで対応している。また、子育て支援センター、保健福祉センター、保育所、乳児の検診ができる診療所がある。母子に寄り添った複合施設である。子どもは遊びを通して学ぶという考え方や母子に寄り添った複合での施設整備等参考にすべきと考える。今般の視察で得た事項を、子供たちの健やかな成長を願い、議会活動の場で提言等を行っていきたい。

## 鶴岡市視察報告書

青雲倶楽部 熊谷 克彦

視察先 鶴岡市

日時 令和7年5月19日（水） 午後2時～午後4時30分

視察事項 部活動の地域移行について

### 鶴岡市概要

- ・令和7年3月現在 人口 116,000人。面積1311.51km<sup>2</sup>。
- ・平成17年10月1日 1市4町1村が合併 新鶴岡市  
20年前の合併時の人口 14万4000人
- ・喫緊の課題 人口減少対策
- ・地理関係 庄内地方 政治文化の中心地 穀倉地帯
- ・農作物 コメ つや姫 雪若丸 だだちゃ豆
- ・食文化 出羽三山の精進料理 孟宗汁  
ユネスコ食文化創造都市ネットワークへ加盟
- ・観光 加茂水族館（クラゲ） 藤沢周平記念館 出羽三山
- ・行事 天神祭り（ばけもの祭り） 桜まつり 日本海寒鱈まつり

### 鶴岡市議会

- ・議員 28名
- ・3月定例会 シルク議会 市長・議員などシルク製品を身に着ける

### 視察

- 1 国・県の「部活動改革」を踏まえた本市（鶴岡市）の取組みについて
  - ・平成30年 国で部活動指導員配置事業が実施。平成31年に11中学校に1名ずつ配置。令和3年以降 最大27名までの予算措置をしていた。
  - ・平成31年 部活動は必ずしも教員が担う業務ではない。
  - ・令和5年以降 休日の部活動改革について 休日の部活動の段階的な地域移行。休日の指導を望まない教師は休日の部活動に従事しないこととする。
  - ・働き方改革で教師の負担を減らすという目的から、部活動を持続可能な体制にしていくという目的に変わる。
  - ・令和3年 運動部・文化部活動地域等の連携の在り方に関する検討委員会を開催。
  - ・令和4年 国県補助を活用した地域運動部活動推進事業実施 実践研究検討委員会からの提言を受けた各学校への説明会の開催

## 2 部活動の地域移行の現状について

### (1) 基本的な考え方

- ・ 教員指導の部活動 月曜から金曜のみ 休日は教員指導の部活動しない
- ・ 少子化でも、将来にわたり子どもたちが部活動に親しむことができる持続可能な部活動

### (2) 現状及び今後の方向性

- ・ 令和6年12月現在 47団体が登録(バスケ、テニス、野球、吹奏楽等)
- ・ 持続可能な地域クラブに向けて  
指導者の確保、報酬。 広範な参集範囲 クラブ規約等
- ・ 令和6年12月 部活道地域移行の普及・促進のための連絡調整会議
- ・ 受け皿  
総合型地域スポーツクラブ、スポーツ少年団、民間クラブ、文化団体  
保護者会クラブ

### (3) アンケートの結果

- ・ 子どもたちの満足度が高い
- ・ 保護者の送迎等負担
- ・ 指導者の確保、負担

## 3 部活動の地域移行に係る国等のスケジュール

※国のスケジュール 令和5年度以降休日の部活動を段階的に地域移行

### (1) 鶴岡市の具体的な移行方法(受け皿・関係団体)

- ① 総合型地域スポーツクラブへ移行
- ② スポーツ少年団へ移行
- ③ 保護者会クラブへ移行
- ④ 民間クラブへ移行
- ⑤ スポーツ・芸術団体による活動への移行

※保護者会クラブについては、卒業と同時に保護者が変わるので、これに替わる持続可能な地域クラブ等を目指す。

## 質疑

質 保護者会クラブから民間への移行の具体的な内容について

答 部活動に係る連絡調整会議がある。保護者会クラブの方々に集まっていたき、移行の仕方、活動場所等々、時には私どもから問いかけをしながら課題の解決に向けて取り組んでいる。

質 地域移行について多様な受け皿があるが、指導者の確保方法について

答 指導者が長年指導している場合もあり、その子供たちが大きくなり指導者になる場合もある。平日は部活動指導員として指導を行い、その同じ方が

民間クラブに所属して休日に部活動の指導をしている場合もある。県のスポーツ団体の連盟から指導者を派遣していただく方法もある。

質 平日の部活動と休日の部活動に係る指導方法について

答 指導方法等話し合いの場がある。

質 競技志向とスポーツを楽しむレクリエーション的志向の子どもたちがいると思うが、その対応は

答 子どものニーズに沿った対応をなす。レクリエーション的な考えの子どもは大会等に出ないという考えも尊重する。中体連は種目によっては、クラブ名で出場し中学校名を出さない例もある。その実情、要望に沿った対応をする。

質 部活動の地域移行による生徒指導について

答 土日の活動の様子を教員が知らないという状況になる。子供たちから土日の活動について情報を得る尽力している。また、教員と指導者間で情報交換の場を設ける場合もある。

#### 考察

鶴岡市における部活動の地域移行については、平成30年ごろから部活動指導員を配置し、平成31年の時点ですでに、学校単位から地域単位に、そして学校以外が担うことを積極的にすすめるべきとの方針を掲げ取り組んでいる。また、国の働き方改革を踏まえて部活動改革を踏まえ、休日の部活動を望まない教師は休日の部活動に従事しないこととしている。その理念を少子化の中でも将来にわたり子どもたちがスポーツ・文化活動に継続して親しむことができる、持続可能な環境を構築するとしている。このような考え方のもとに、長年にわたり取り組み、部活動の地域移行の受け皿として、総合型地域スポーツクラブ、スポーツ少年団、保護者会クラブ等々5つの組織形態が構築されている。さらに、保護者会クラブは、より組織形態は明確な民間クラブ等への移行を働きかけている。

その時点、その時点で部活動の将来を見据え課題を明確にし関係者で議論を重ね保護者への説明等を行っている。丁寧な議論丁寧な保護者への説明を行うことは本市においても今後取り組む際には是非参考にすべきと思慮する。

子供たちの多様なニーズに沿った部活動をきめ細やかに実施していることは重要と思われる。競技志向、楽しみスポーツ等それぞれが尊重されてしかるべきと思慮する。

部活動の地域移行の受け皿づくりに、持続可能な環境づくりの理念のもと、民間クラブ等の設立等にむけ話し合いを重ね積極的に取り組んでいる。

部活動の地域移行について、地域、保護者、スポーツ関係者、学校、教育委員会等々など、課題を先取りし、話しあいを重ね、受け皿作り等一つずつ課題解決に向け尽力し成果を挙げていることに参考にすべきと思慮する。今回の視察研修で得た事項を議会活動に生かし市民の負託に応えていきたい。

## 視察写真



# 名取市議会青雲倶楽部 管外行政視察報告書

報告：大泉徳子

## 山形県東根市総合保健福祉施設 さくらんぼタントクルセンター



- 視察日時：令和7年5月20日（火曜日）13：30～15：00
- 視 察 先：東根市総合保健福祉施設 さくらんぼタントクルセンター
- 視察内容：設置に至る経緯、事業内容等
- 視察参加議員：青雲倶楽部 佐藤繁樹、鈴木英信、寺嶋雅子、二階堂充  
熊谷克彦、大泉徳子、山田龍太郎

### ==東根市の概要==

JR 山形新幹線停車駅、東北中央自動車道の東根 IC・東根北 IC、山形空港を有している。隣り合う仙台市へは国道48号線によりアクセスも優れており、高速交通網の要衝となっている。

「さくらんぼ」生産日本一を誇り、さくらんぼの王様「佐藤錦」発祥の地でもある。駅名を「さくらんぼ東根駅」、東北有数の「さくらんぼマラソン大会」実施などさくらんぼを活かしたまちづくりを展開。平成29年4月には「東根さくらんぼ」が地理的表示保護制度(GI)の認証を受けている。

他にも気候を生かし果樹栽培が盛んである一方、「農工一体」のまちづくりを掲げ積極的な企業の誘致活動を行い、県内屈指の工業団地立地に至った。

製造品出荷額は、毎年県内トップクラスである。また、産直施設や観光果樹園更には子育て関連施設や公益文化施設など、集客力の高い施設が集積している。

人 口：47,437人 (R7.4月1日現在)

世帯数：18,921世帯 //

面 積：206.94 km<sup>2</sup>

ミーティングルームで研修





【遊びセンター】NPO 法人に委託 室内大型遊戯施設「けやきホール」  
年間を通して、親子らが自由に来館し遊べる空間とし、  
ガラス張りの壁、天井の高い立体空間で、けやきをモチ  
ーフとした大型遊具を設置。のびのびと遊べるよう計画、  
設置されている。

## ②保健エリア

【保健センター】乳幼児健診や定期健診  
など、市民の健康増進のための各種事業

## ③福祉エリア

ミーティングルーム 7 部屋  
教養娯楽室（和室）

## ④医療エリア

【休日診療所】東根市医師会に委託  
日曜・休日の初期救急医療機関として、市民の応急医療を担う。

## ⑤共有エリア

ふれあいプラザ、大ホール、視聴覚室を有する。

大ホールには 1 階 352 席、2 階 148 席があり、1 階座席は、  
後部壁面と舞台下に収納可能なロールバックチェア。収納後は  
フロアとして健康体操や軽運動等も利用可。

## ⑥事務エリア

市役所こども家庭課、健康推進課はこの施設に設置。  
3 相談室と応接室がある。

国指定天然記念物の  
東根の大ケヤキをイメージ



## 4. 運営について

施設全体は市が管理。大ホール及び市民への開放部は施設コーディネート事業として、NPO 法人に運営委託。また、子育て支援として子育てセンター（ファミリーサポートセンタ事業・子育て相談事業等）、遊びセンターのけやきホールの運営についても、子育て支援事業として NPO 法人に委託。毎月、行政と NPO 法人の定例会議を設けることで、密な連携を構築。課題の共有で円滑な運営を目指す。

### 利用時間

- ・タントクルセンター 8 時 30 分～22 時 00 分
- ・子育て支援センター 9 時 00 分～18 時 30 分
- ・けやきホール 9 時 00 分～18 時 30 分

- ・行政手続き窓口 健康推進課、こども家庭課 平日 8 時 30 分～18 時 30 分
- ・休日診療所 日曜、祝日 9 時 00 分～16 時 00 分

### 運慶経費 令和 5 年度計画額

タントクルセンター運営管理業務委託料	53,180,661 円
〃 維持管理事業費	266,281,275 円

\*ひがしね保育所運営委託料、休日診療所運営委託料は別

==事前質疑事項==

Q. 設置に至る経緯は

A. 基本構想を検討していた平成11～13年当時、東根市の人口増加が続き、市民一人ひとりが安心と生きがいを持って暮らし、住みよい活力ある“高福祉社会”を市民の保健・福祉・医療サービスの拠点となる施設が求められていた。基本構想の中で、「子ども達の健やかな成長」という視点に立ち、子育て支援の行き届いたまち子どもの遊びたい欲求を満たす、発達年齢にふさわしい遊具の整備が掲げられ、子育て支援施設と保健福祉施設に遊びセンター・ホールを加えた複合施設として、市庁舎敷地に隣接する市有地への建設がすすめられた。

設計にあたっては、保育所（駐車場・園庭含む）、室内遊戯施設（けやきホール）総合健診室、休日診療所などの併設。施設の動線が利用者に対しわかりやすく、重ならない事、市役所や市民の広場などのアクセスを考慮している。

ミーティングルーム（会議室）は可動間仕切りにより分割でき、フレキシブルな利用が出来るよう配慮。ふれあいプラザは施設の中央に位置し、2層吹き抜けの開放的なアトリウム空間で、開館時間中は常時開放し、吹き抜けを介して各施設の活動が互いに感じ取れる空間とした。

大ホールは、後部壁面に収納可能なロールバックチェアとし、フラットになる。

Q. 事業の内容について

A. 貸館については、サークル活動や企業の研修などに利用されている他、大ホールについては、中高生の部活動の発表や各種団体の総会などに利用されている。

けやきホール（自由来館）については、午前中は3歳未満の未就園児親子の利用や各種サロンの参加者が多く、午後から夕方は小中学生の放課後利用が多い。

タントクルセンターは、NPO 法人クリエイティブひがしねに運営委託。

市民の目線で事業を実施。細やかな気配りの結果、いまだに来館者が途絶えることのない、市民に愛される施設になっている。行政だけでは成しえなかったことだと捉えている。

Q. 課題及び今後の取り組みについて

A. 開館当初は子育て支援センターとけやきホールが離れたところに配置されていたため、乳幼児の親子が安心して遊べる一方、いつからけやきホールでの遊びに切り替えたらいいいのかわからない・大きい子と交わる機会がない・上のきょうだいの遊びの見守りが出来ない。。。などの声があった。

また、休日になると、市内だけではなく市外・県外からの来場者も多く、子ども達の年齢層も幅広くなるため、小学生が走り回る横で乳幼児が座って遊ぶ状態になる。スタッフは子ども達に「近くに小さい子がいるよ」「ここで走っても大丈夫かな」と子ども達に考えさせる声かけをしているが、遊びに夢中になるとけがをする（させられる）のではないかと。と保護者から心配の声もあった。

令和6年度、屋内遊戯施設大規模改修事業において、1階フロアにカウンターで仕切った「ねんねハイハイルーム」を設置し、視線を途切れさせず同じ空間で過ごせるレイアウトに変更した。

7年度でオープンから20周年を迎えるため、施設の維持管理については長寿命化計画により順次大規模修繕を進めているが、多大な費用を要することから、財源の確保が課題である。

==所 感==

五月晴れの中、さくらんぼ東根駅に降り立った途端、フルーツをモチーフにした東根市のキャラクターが目飛び込んできた。かわいいそのキャラクターはガラスケースの中から、駅利用者を和ませている。

駅前には緑豊かで、よく見るとその木々は幾種類ものさくらんぼの木で、まだ小さな緑色の実を付けていた。駅前通りに面したあちらこちらには、さくらんぼのオブジェが点在し、国内有数のさくらんぼ生産地であることがよくわかる。

会派視察の一つに、山形県東根市の「さくらんぼタントクルセンター」を選んだ理由は、かねてより子育てや孫育て中の方々から「山形県内には室内遊戯施設がたくさんありその中でも、東根市の施設は工夫されている。名取にもつくって欲しい」との声が市民より寄せられていた。

今年3月、本市では大型ショッピングモールに民設公営の子供向けネットパークがオープンした事もあり、定評がある東根市のさくらんぼタントクルセンターを視察先に選んだ。

東根市は以前、「周回遅れの施策」と言われていたとの説明だったが、約30年前には既に「子育て先進都市」を掲げ福祉施策計画を進めていた事は先進的である。センターの完成当時は、多額の税金を投じ遊戯施設を建設したことに市民からは、批判の声もあったとの事。理念である、遊びを通じて元気に育てる「遊育・ゆういく」、大人も子ども共に育つ「共育・きょういく」は現在7期目の市長の信念が伺える。本市においては、今すぐにこのような施設建設は不可能としても、市民の健やかな日々の生活にこのような考えを手本にしたい。

また特徴的なひとつに、運営に携わっているNPO法人の設立の背景がある。施設建設計画と同時進行で開催されていた、22名から成る市民検討委員会の中から、自発的にセンター完成後は運営に携わりたいと10数名で組織。保育士や保健師など子育てのプロフェッショナルが参加していたとの事。柔軟に市民の声に対応できる体制で、例えば子育ての悩みに即座に応えられる施設となっている。本市ではこの先、児童センター等の施設を指定管理での運営に以降の考えであるが、受け皿になる団体の育成も課題である。参考にしたい先進事例である。

センターは「日経子育て支援大賞」を受賞。また住みよさランキングで東根市は東北地区2位にランクインした。若い世代・子育て世代の定住は、このセンターで育った子ども達が今も安心して東根で子育てをしているのだと思う。さくらんぼタントクルセンターは東根市民のシンボリックな施設であることは百聞は一見に如かず、で大変良い視察となった。これから名取市が取り組むべき子育て支援策の提案に活かしたい。

